※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3011

令和５年度　工業科

教科	工業	科目	情報技術基礎	単位数	2～4 単位	年次	3～4 年次
使用教科書	工業 310「精選情報技術基礎」　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

プログラミング（JIS FULL BASIC)、ハードウェア（論理回路等）など情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得する。受講者全員が３級情報技術検定の受検と合格を目指す。

2　学習の到達目標

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する知識と技術を習得させ、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身につけている。	諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理･表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理･活用のために必要な技能を身につけている。	情報技術に関する基礎的な知識をもち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解している。
評価方法	① ノート、発言、発表等で評価する。 ② 質問の応答程度等で評価する。 ③ 出欠状況･忘れ物等についても評価する。	① 授業中の注意力・熱意の程度で評価する。 ② 授業中の態度により評価する。	指導内容のまとめとして、第１～5 回考査等により評価する。	第１～5 回考査で評価を行う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第1章　産業社会	1.　情報と生活	◎	○	○	◎	a: コンピュータに関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その知識の習得に向けて意欲的に取り組めているか。 b:自ら思考を深め、コンピュータにおける問題解決方法を適切に判断する能力を身につけているか。 c:情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけているか。 d: 社会における情報化の進展と情報の意義や役割，情報化社会に生きる技術者としての使命を理解しているか。	考査 レポート 出席状況 授業態度
		2. コンピュータの特徴	◎	○	○	◎		
		3. コンピュータの発達	◎	○	○	◎		
		4. 情報化の進展と産業社会	◎	○	○	◎		
		5. 情報化社会のモラルと管理	◎	○	○	◎		
		6. 情報セキュリティの管理	◎	○	○	◎		
	第2章　コンピュータの基本操作とソフトウエア	1. コンピュータの基本操作	◎	○	○	◎		
		2. ソフトウェアの基礎	◎	○	○	◎		
		3. アプリケーションソフトウェア	◎	○	○	◎		
後期	第3章　プログラミング	1. プログラム言語	◎	○	○	◎	a: プログラムやデータに関する基礎的な知識と技術に関心をもち、実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身につけているか。 b: プログラムに関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、情報技術を活用して情報を処理・表現することができるか。 c:プログラム作成ができるか d:情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解しているか。	考査 レポート 実技 出席状況 授業態度
		2. プログラムのつくりかた	◎	○	○	◎		
		3. アルゴリズムと流れ図	◎	○	○	◎		
		4. プログラミングの基礎	◎	○	○	◎		
		5. 順次処理	◎	○	○	◎		
		6. 選択処理	◎	○	○	◎		
		7. 繰返し処理	◎	○	○	◎		
	第4章　ハードウエア	1. 処理装置と周辺装置	◎	○	○	◎		
		2. データの表し方	◎	○	○	◎		
		3. 論理回路の基礎	◎	○	○	◎		
		1 月 3 級情報技術検定の受検						

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b: 思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。